

特定非営利活動法人日本ガラパゴスの会 第11期通常総会

2016年9月24日(土) 13:45~15:20

議事次第

於 中目黒アトラスタワー集会室

1. 開会 (司会：櫻 博子)
2. 理事長挨拶：清水善和
3. 総会成立の確認 (報告：奥野玉紀)

	返信あり		返信なし	計
	出席	欠席・委任状		
正会員	7	39	27	73
比率	9.6%	53.4%	37.0%	100%

4. 議長の選出：議長 (理事長) 清水善和
5. 議事録署名人の選出：櫻博子、奥野玉紀
6. 議事
 - 6.1. 第1号議案：第11期 (2015年7月1日~2016年6月30日) 事業報告および収支報告 (奥野)
 - 6.2. 第2号議案：第12期 (2016年7月1日~2017年6月30日) 事業計画および収支予算 (奥野)
*軽微な修正の後、全ての議案が満場一致で承認されました。
7. 質疑、意見等
 - *JAGA会員でCDFボランティアに参加したHさんに活動報告会をしてもらってはどうか。
 - *小笠原ツアーをJAGA主催で行ってはどうか。
8. 閉会

【総会特別企画】ガラパゴス写真コンテスト2016選考会

応募があった51枚より、カレンダークオリティに合った35枚を事前選考。総会終了後、参加者7名で、35枚から13枚の優秀賞を選出した。表紙はゾウガメ。最優秀賞は、理事長の選考で、海中のバットフィッシュの写真に決定した。

第11期(2015年7月1日～2016年6月30日)事業報告

第11期の事業報告は、以下のとおりである。

※「担当」は理事/監事、「協力」は主に会員を記載(敬称略)。その他多数のボランティア等が関わった。

<p>(1) ガラパゴスに関連する環境教育及び普及啓発に係る事業</p>
<p>① 小学館図鑑「キッズペディア世界遺産」(11/20発売)「ガラパゴス諸島」の2ページを監修。担当：奥野</p> <p>② ガラパゴスカレンダー2016の制作・頒布：昨年までの印刷会社を変更し、オンデマンド印刷で380部印刷。11月下旬より発送開始。寄附御礼(頒布)185部、会員配布144部、CDF寄附10部、支援者へ贈呈・送付34部。残部7部は、2017年カレンダーの販路拡大用に活用予定。写真提供：会員他、社会調査参加者。担当：西原、奥野、波形、里見。帝人株式会社ボランティアサポートプログラムより一部助成。</p> <p>③ 「エコツーリズムと持続可能な開発」翻訳・監修(3/7発刊)。担当：海津、真板、奥野</p> <p>④ ペンギントーキング(3/13、ペンギン基金主催)：ガラパゴスペンギンについて講演。担当：奥野</p> <p>⑤ 「ガラパゴスと小笠原」勉強会(3/25)小笠原・父島よりNPO法人小笠原自然文化研究所代表の堀越和夫さんを招き、ガラパゴスと小笠原の自然管理について発表・情報交換をした。担当：清水・奥野</p> <p>⑥ 2018年の小笠原返還50周年、および日本エクアドル国交樹立100周年の各記念事業に向けての準備や打合せ等が始まった。前者では、小笠原からのガラパゴス視察ツアーの企画、後者では、「ガラパゴスと小笠原」に関する継続的な交流の方法を検討。協力：赤間亜紀、柴田一輝、他。担当：波形、奥野</p> <p>⑦ 立命館守山高校3年授業(6/9)：世界遺産の「観光地と自然環境保護」について授業。担当：真板</p> <p>⑧ 「日本・ガラパゴス50年史」編集、発行(2016年9月末に発行予定)協力：伊藤秀三、担当：西原</p> <p>⑨ 「第4回高校生の島嶼科学交流会」(2016年12月17日予定)でガラパゴスの高校と会場をウェブで中継するための準備およびコーディネーション。協力：赤間亜紀、他。担当：奥野</p> <p>⑩ 上野動物園ガラパゴスゾウガメ2頭、遺伝子解析プロジェクト：mtDNA解析が終了し、次段階のマイクロサテライト解析が、米Yale大学との連携・連絡がスムーズにいかず、プロジェクトは中断中。</p> <p>⑪ 旅行社による「ガラパゴスツアー」企画への協力。保全機関への視察や高校レストランでの食事などを盛り込み、9月の施行予定だったが、参加者が揃わず催行中止に。担当：清水、奥野</p> <p>⑫ その他、出版関係、テレビ番組制作会社などからの取材や監修依頼、随時対応。</p>
<p>(2) ガラパゴスに関連する情報の収集および提供に係る事業</p>
<p>① ガラパゴス社会調査：8月11～21日、北海道大学観光学高等研究センターの専門家らと共に、JAGAからは真板、波形、奥野および里見が参加し、サンタクルス島およびイサベラ島で、ガラパゴス国立公園職員、チャールズ・ダーウィン研究所所長・職員、島民、市長や行政職員、などへヒヤリング調査を行った。現在ガラパゴスが力を入れていることは、島民の人材育成や意識向上、若者への環境教育ということだった。帰路に立ち寄ったキトでは、在エクアドル日本大使との意見交換を兼ねた夕食会も行われ、日本とエクアドルの関係強化について、現状や今後の動きなども聞くことができた。</p> <p>② 編集協力・写真貸与：BS朝日「2週連続ガラパゴススペシャル」(11/7、11/14放送)担当：奥野</p> <p>③ 取材協力：NHK総合「ダーウィンが来た！」(11/8放送)『ガラパゴスで大進化！潜りをきわめた鳥(ガラパゴスコバネウ)、NHK-BSプレミアム「ワイルドライフ」(1/11放送)『進化の島ガラパゴス～空を飛べない鳥 海中を舞う』：両番組とも、フェルナンディナ島での長期取材により、あまり知られていなかったコバネウの生態を明らかにした。JAGAでは、取材前のヒヤリング、取材へのアドバイス、番組編集への情報提供など協力した。協力：伊藤秀三、担当：波形、奥野</p> <p>④ SNSによる情報発信：Facebook、twitterによるガラパゴスに関する情報の発信。ガラパゴスに関わる機関からの発信をシェアしたり、独自記事を発行したりして、計153記事を発信した。担当：奥野</p> <p>⑤ 会報の制作・発行：11月に第20号を発行。編集者不足により発行が滞った。担当：奥野</p> <p>⑥ メールニュースの発行：第57～61号。情報発信がSNS中心になったため、メールマガジンの発行回数も減少した。担当：奥野</p> <p>⑦ 2016年度以降放送予定のドキュメンタリー番組について(2本)、情報提供をおこなった。担当：奥野</p> <p>⑧ その他、テレビ局などメディアや個別の問い合わせ対応、随時。担当：奥野</p>

第11期(2015年7月1日～2016年6月30日)事業報告(案)

(3)生態系等の環境問題全般に関する情報の収集及び提供に係る事業

特になし。

(4)ガラパゴスにおける環境保全活動の実施及び支援に係る事業

1) ガラパゴスペンギン生態調査：任意団体「ペンギン基金」「ペンギンアート展実行委員会」、およびペンギン愛好家の個人より寄付を受け、ダーウィン研究所が毎年行っているガラパゴスペンギンの生態調査を支援した。この調査はガラパゴス国立公園局などと共にわれ、ガラパゴスコパネウ、ガラパゴスアホウドリも一緒に調査される。いずれの生息地も無人島や居住区から離れた場所で、チャーター船での移動・調査となる。支援金は、これら調査に必要な移動費、物資の購入、ボランティアスタッフの経費などに使われた。



ペンギン調査

2) ガラパゴス・ベルデ 2050：BESS フォレストクラブと共に、フロレアナ島における「節水技術を活用した持続可能な農業および園芸」プロジェクトを支援。乾燥した場所でも苗を育てることができる「ウォーターボックス」(右下写真)を使って、フロレアナ島で森林再生用の苗、園芸植物や農作物の苗を植樹する活動を行った。外来種の侵入機会の削減、在来の植物で構成される森林の再生、島民生活の自立を促すのが目的。

活動では、かつて人によって墓地や鉱山、ゴミの埋め立て地として使われ、現在は放棄地になり、外来種の温床となっていた場所を整備し、そこに本来の生態に合った在来種・固有種の植物を植えた。島内の農家とのコラボレーションでは、種子が拡散しないバナナやカカオ、オレンジやパパイヤなどを植え、持続可能な農業への試験的取り組みを行った。またプロジェクト全体を管理するクラウド上のプラットフォームを作成し、これまで全島で植えられた苗をスタッフが一本一本管理することにも成功している。



ウォーターボックスの中で育っている苗

フロレアナ島での試験的活動が軌道に乗ったことから、規模を他の島に拡大して、サンタクルス島、バルトラ島、サウスプラサ島などでも植苗を行った(別支援による)。

3) ダーウィン研究所活動支援：チャールズ・ダーウィン財団(CDF)が運営するチャールズ・ダーウィン研究所では、年間の活動の全てが世界中からの寄附によって賄われている。しかし多くの寄附は用途やプロジェクトを指定したもので、必ずしも緊急かつ必要なところに十分な資金が調達されるわけではない。JAGA 会員などからの寄附をダーウィン研究所所長に使い道を委ねる形で贈呈した。また今年度ダーウィン研究所で半年ほどボランティア活動をした JAGA 会員の飯崎晶子さんへボランティア手当を支給した。

(5)ガラパゴスに関連する国際協力に係る事業

特になし

(6)ガラパゴスに関連する調査研究の実施、支援、及び研究者の支援に係る事業

特になし

(7)ガラパゴスに関連する諸機関の運営又は活動に関する連絡、助言、援助に係る事業

(4)で、ダーウィン研究所の活動を支援。その他、日本経団連自然保護基金の助成金申請に対して、CDF に助言を行い、また基金と連絡を取り、申請支援を行った。2016年4月、外来植物の駆除方法の開発と植生再生事業に対して、15,200ドルの助成決定。(同基金から直接財団へ送金)

(8)その他、本会の目的を達成する上で必要な事業

- ・お宝エイド：支援者が、リサイクルショップに不要品を送ると、査定額+10%が JAGA に寄附される仕組み。支援者に配るチラシを作成し、今後配布予定。
- ・その他ファンドレイジングのための活動。

平成27年度(第11期:2015年7月1日~2016年6月30日)活動計算書

特定非営利活動法人日本ガラバゴスの会

科目	金額	備考
I 経常収益		
1 受取会費		
正会員受取会費	¥375,000	53名、うち複数年払12名
その他会員受取会費	¥368,950	37名、複数年払い7名、学生1名、団体2
計	¥743,950	
2 受取寄付金		
寄付	¥1,193,000	会員など個人より
エコポイント助成金	¥16,528	省エネ住宅ポイント
計	¥1,209,528	
3 受取民間助成金		
BESSフォレストクラブ	¥2,400,000	前年度入金分・今年度事業分
帝人株式会社	¥100,000	ボランティアサポートプログラム
計	¥2,500,000	
4 事業収入		
普及啓発事業	¥229,400	カレンダー頒布
情報提供事業	¥60,000	テレビ番組への写真・情報提供
計	¥289,400	
5 その他収益		
受取利息	¥645	銀行利息
経常収益計	¥4,743,523	
II 経常費用		
1 事業費		
(1) ガラバゴスに関連する環境教育及び普及啓発に係る事業		
印刷費	¥238,029	カレンダー印刷費
交通費	¥38,462	ボランティア、ゲスト交通費
資料費	¥29,442	資料用録音録画機器の購入
通信費	¥35,389	カレンダー送付等
会議費	¥23,252	セミナー、ボランティア会議会場費等
計	¥364,574	
(2) ガラバゴスに関連する情報の収集及び提供に係る事業		
インターネット費	¥5,400	ホームページのサーバー代
調査・資料費	¥45,655	社会調査経費、資料購入代
印刷費	¥14,880	会報の印刷代
計	¥65,935	
(3) 生態系等の環境問題全般に関する情報の収集及び提供に係る事業	¥0	
(4) ガラバゴスにおける環境保全活動の実施及び支援に係る事業		
1)ペンギン調査費	¥1,100,608	ダーウィン研究所の調査費用として(\$11,000)
2)ガラバゴス・ベルデ2050	¥2,416,531	BESSフォレストクラブ支援事業(\$20,000)
3)ダーウィン研究所活動支援	¥177,200	ダーウィン研究所運営資金+現地ボランティア手当
計	¥3,694,339	
(5) ガラバゴスに関連する国際協力に係る事業	¥0	
(6) ガラバゴスに関連する調査研究の実施、支援、及び研究者の支援に係る事業	¥0	
(7) ガラバゴスに関連する諸機関の運営又は活動に関する連絡、助言、援助に係る事業	¥0	※ダーウィン研究所への支援については、(4)に算入した
事業費計	¥4,124,848	
2 管理費		
(1)人件費 役員報酬等	¥0	
(2)その他経費		
シェアオフィス利用費	¥97,900	ワンストップビジネスセンター青山 年間利用料
事務局管理費	¥300,000	事務局管理委託代
通信費	¥50,190	事務局携帯電話契約料、通話料、郵送料等
消耗品費	¥14,509	印刷用紙、ラベル、プリンターインク等
事務手続き費	¥22,158	ネットバンク手数料、振込手数料
交通費	¥14,175	事務局交通費(打合せ等)
会議費	¥17,672	総会会場費等
管理費計	¥516,604	
経常費用計	¥4,641,452	
当期経常増減額	¥102,071	
当期正味財産増減額	¥102,071	
前期繰越正味財産額	¥3,689,220	
次期繰越正味財産額	¥3,791,291	

平成27年度 計算書の注記

特定非営利活動法人日本ガラパゴスの会

1.重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。

(1)消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込み方式によっています。

2.事業別損益の状況

事業別損益の状況は以下の通りです。

(単位:円)

科目	(1)環境教育 普及啓発事	(2)情報提供 収集事業	(4)保全支援 事業	事業部門計	管理部門計	合計
I 経常収益						
1.受取会費			0	0	743,950	743,950
2.受取寄附金			1,209,528	1,209,528		1,209,528
3.受取助成金等	100,000		2,400,000	2,500,000		2,500,000
4.事業収益	229,400	60,000		289,400		289,400
5.その他収益				645		645
経常収益計	329,400	60,000	3,609,528	3,999,573	743,950	4,743,523
II 経常費用						
(1) 人件費						
現地スタッフ給付金 (保全支援活動)			3,694,339	3,694,339		3,694,339
(2) その他経費						
業務委託費					300,000	300,000
通信費	35,389			35,389	50,190	85,579
交通費	38,462			38,462	14,175	52,637
印刷制作費	238,029	14,880		252,909		252,909
インターネット費	0	5,400		5,400		5,400
会議費	23,252			23,252	17,672	40,924
資料費	29,442	45,655		75,097		75,097
オフィス利用料					97,900	97,900
消耗品・備品費	0			0	14,509	14,509
手続き費等	0			0	22,158	22,158
経常費用計	364,574	65,935	3,694,339	4,124,848	516,604	4,641,452
(事業別)当期経常増減額	-35,174	-5,935	-84,811	-125,275	227,346	102,071

3.用途が制約された寄付金等の内訳

用途が制約された寄付金等の内訳(正味財産の増減及び残高の状況)は以下の通りです。

当法人の正味財産は3,791,291円ですが、そのうち用途が制約された財産はありません。

(単位:円)

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
ガラパゴスにおける環境保全支援事業 エコポイント寄付金	0	16,528	16,528	0	エコポイント事務局より16,528円の寄附を受け、全額を対象事業に使用しました。
BESSフォレストクラブ 支援協賛金	0	2,400,000	2,400,000	0	環境保全事業支援協賛金としてBESSフォレストクラブより交付を受けた240万円の全額を、対象事業に使用しました。

4.役員及びその近親者との取引内容

役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

(単位:円)

科目	計算書類に計上された金額	うち、役員及び近親者との取引
(活動計算書) 管理費		
事務局管理費	300,000	300,000
活動計算書計	300,000	300,000

※奥野への事務局業務委託

第11期(2015年7月1日～2016年6月30日) 特定非営利活動に係る事業 会計財産目録

2016年6月30日現在

特定非営利活動法人日本ガラパゴスの会

(単位:円)

科 目	金 額	額
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		
現金	5,025	
普通預金 みずほ銀行青山支店	1,492,645	
普通預金 三井住友銀行渋谷駅前支店	273,256	
郵便振替口座 ゆうちょ銀行	946,950	
ジャパンネット銀行	1,092,201	
前払金(BESSフォレストクラブ助成金)	2,308,314	
前払金(シェアオフィス利用料)	97,900	
流動資産合計		6,216,291
2 固定資産		
土地 所在 m ²	0	
建物 所在 m ²	0	
車両運搬具 乗用車 台	0	
固定資産合計		0
資産合計		6,216,291
II 負債の部		
1 流動負債		
前受会費	25,000	
前受助成金(BESSフォレストクラブ)	2,400,000	
流動負債合計		2,425,000
2 固定負債		
長期借入金	0	
退職給与引当金	0	
固定負債合計		0
負債合計		2,425,000
正味財産		3,791,291

第11期(2015年7月1日～2016年6月30日) 特定非営利活動に係る事業 会計貸借対照表

2016年6月30日現在

特定非営利活動法人日本ガラパゴスの会

(単位:円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金	3,810,077	
前払金(BESSフォレストクラブ助成金)	2,308,314	
前払金(シェアオフィス利用料)	97,900	
流動資産合計		6,216,291
2 固定資産		
土地	0	
建物	0	
車両運搬具	0	
固定資産合計		0
資産合計		6,216,291
II 負債の部		
1 流動負債		
前受会費	25,000	
前受助成金(BESSフォレストクラブ)	2,400,000	
流動負債合計		2,425,000
2 固定負債		
長期借入金	0	
退職給与引当金	0	
固定負債合計		0
負債合計		2,425,000
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産		3,689,220
当期正味財産増減額		102,071
正味財産合計		3,791,291
負債及び正味財産合計		6,216,291

第12期（2016年7月1日～2017年6月30日）事業計画・予算案

第12期（2016年7月1日～2017年6月30日）の事業方針及び事業計画は、以下のとおりである。

(1)環境教育・普及啓発事業

様々な年代の方に、ガラパゴスの自然や生きものの世界、科学的な価値などについて、分かりやすく伝え、関心を持ってもらう。また、ガラパゴスに多くの日本人が行き、環境や生態系への負荷を抑えた「エコツーリズム」を体験してもらうことで、日本や世界の自然や環境保全に対しても関心を持ってもらう。

- * 小・中・高校生向けのガラパゴスを取り上げた課外授業（環境教育教室）を行う。ホームページおよびFacebookで広報を行い、要請があれば出向いて授業（講演）する。
- * JAGA体験学習ツアーの企画や、旅行社とのタイアップ：企画協力や事前勉強会など旅行社との提携を図り、ツアー客に保全に関心を持ってもらう仕組みを構築し、実行する。
- * 「日本・ガラパゴス50年史」の発行を行う。
- * 「高校生の島嶼科学交流会」（@東邦大学）ガラパゴス高校とインターネット中継を行う。（12/17予定）
- * 「ガラパゴス写真コンテスト2016」開催。Facebook上、および会員向けメールニュース等で、写真を募集し、優秀賞は翌年のカレンダーに採用する。年間スケジュール：応募開始（6月末）→応募締切（8月下旬）→優秀賞選考（総会時）→制作開始・注文受付開始（10月中）→頒布開始（11月中旬）ファンドレイジング／営業ツールとしても活用する。固定の大量注文者（企業や団体、名入れカレンダー注文企業）を発掘、確保するよう努める。
- * 2018年の周年記念事業として、「ガラパゴスと小笠原」を繋げるプロジェクトの企画を行う。
- * ガラパゴスゾウガメの遺伝子解析プロジェクト：解析の詰めと結果発表。
- * その他、講師の派遣、出版物への原稿執筆や翻訳、監修など随時対応。

(2)情報収集提供事業

ガラパゴスに関する正しい情報を的確に提供する。

- * ガラパゴスのエコツーリズムに関するウェブページの作成：昨年度の社会調査の成果を踏まえた情報提供。日本のエコツーリズムへの還元など、関心やニーズが高い。
- * インターネットを活用した情報提供に力を入れる。（Facebookやメールマガジン、ホームページなど）
- * テレビ番組への取材・編集協力、監修など、随時。ホームページ上で実績の掲載を行う。
- * マスコミや個別の問い合わせへの対応、情報・写真提供など、随時。

(3)環境問題全般情報収集提供事業

特に予定なし。

(4)ガラパゴスの環境保全活動の支援

昨年度同様、ガラパゴスペンギン保全のための生態調査支援、ガラパゴス・ベルデ2050（ネイティブ・ガーデン作りを含めた植林活動支援）、ダーウィン研究所活動支援を行う。現地のニーズについて随時連絡を取り、必要など必要の支援を行う。この他に、現在重要視されている住民の自立支援および環境教育について、特に現地の学校が行っている活動を支援する。具体的には、観光産業に従事する人材を育てるサンタクルス島の高校の活動や、離島であるイサベラ島の小学校で行われている環境教育に関する活動への支援である。

(5)国際協力事業

（4）に関連して、助成金が採用されれば、若者への人材育成事業の支援を行う。

(6)調査研究支援事業

需要があれば、支援を行う。（日本人研究者など）

(7)現地諸機関の運営支援事業

・チャールズ・ダーウィン財団運営支援：研究所のニーズ（研究機器など）を把握し、日本企業に自社製品提供などの支援をお願いする。

(8)その他、本会の目的を達成する上で必要な事業

・企業への働きかけを強化する。ガラパゴスに進出している日本製品を提供している日本企業、および旅行代理店に対して、保全支援に協力をお願いする。

平成28年度 活動予算書
第12期(2016年7月1日から2017年6月30日まで)

特定非営利活動法人日本ガラパゴスの会

科目	金額	備考
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	350,000	70人
協力会員受取会費	350,000	40人+3団体
計	700,000	
2. 受取寄付金		
受取寄付金(個人)	500,000	個人、および任意団体
エコポイント寄付金	10,000	省エネ住宅ポイント
計	510,000	
3. 受取民間助成金		
受取民間助成金	2,400,000	BESSフォレストクラブ支援協賛金
	100,000	企業協賛金
その他助成金	1,000,000	申請予定
計	3,500,000	
4. 事業収益		
普及啓発事業	300,000	カレンダー頒布、講演料など
情報提供事業	100,000	テレビ・出版支援事業
計	400,000	
5. その他収益		
受取利息	1,000	銀行利息
経常収益計	5,111,000	
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) ガラパゴスに関する環境教育・普及啓発事業		
印刷費	250,000	カレンダー制作(400部)
交通費	30,000	ボランティアや演者の交通費
通信費	20,000	郵送代
記念事業費	300,000	「日本とガラパゴスの交流史」製作費
消耗品費	30,000	郵送用品等
会議費	20,000	ボランティア会議会場費等
計	650,000	
(2) ガラパゴスに関する情報収集提供事業		
インターネット費	30,000	ホームページ更新、サーバー代
通信費	20,000	会報等郵送費
資料費	10,000	情報収集のための資料購入費
印刷費	30,000	会報等印刷代(会報2号分)
計	90,000	
(3) 環境問題全般に関する情報収集提供事業		
その他	0	
(4) ガラパゴスにおける環境保全活動の支援事業		
① ペンギン調査費助成	100,000	ペンギン基金支援事業
② ガラパゴスベルデ2050(植生再生事業)	2,400,000	BESSフォレストクラブとの共同支援事業
③ 環境教育人材育成事業	1,000,000	助成金申請予定
④ ダーウィン研究所運営資金支援	200,000	会員からの寄附等
計	3,600,000	
(5) ガラパゴスに関する国際協力事業		
その他	0	
(6) ガラパゴスに関する調査研究関連支援事業		
その他	0	
(7) ガラパゴスに関する諸機関の運営支援事業		
その他	0	
(8) 予備費	100,000	緊急支援用等
事業費計	4,440,000	
2. 管理費		
(1) 人件費 役員報酬等	0	
(2) その他経費		
シェアオフィス利用費	100,000	ワンストップビジネスセンター青山 年間利用料
事務局管理費	400,000	管理業務委託費
通信費	50,000	郵送代、電話使用料、など
消耗品費	20,000	コピー用紙、ラベル、インクなど
事務手続き費	30,000	銀行振込手数料、ネットバンク利用料等
NPO保険費	10,000	
交通費	20,000	事務局交通費
会議費	20,000	総会・理事会会場費等
雑費	21,000	予備費
管理費計	671,000	
経常費用計	5,111,000	
当期正味財産増減額	0	
前期繰越正味財産額	3,791,291	
次期繰越正味財産額	3,791,291	